

# 景況調査

(平成22年4月～6月期)

## 〈業況〉

前年同期と比べた4月～6月期の業況判断は、▲19.7となっている。業種別では、製造業が8.3と最も高く、サービス業と卸売業が同じ0.0と続き、小売業の▲38.9、建設業の▲58.3が最も低くなっている。製造業では、DIがマイナスからプラスに転じたことが注目される点である。サービス業、卸売業もプラスマイナス0に到達している。一方で、小売業は2ポイント程度改善したものの未だ▲38.9、1～3月期に大幅に改善を見せた建設業でも38ポイント以上の落込みで▲58.3となった。

7～9月期見通しは、卸売業と建設業が共に40ポイント改善の40.0、▲18.2となっている。他は、悪化予想となっている。

〈売上高〉  
売上高の4～6月期のDIは全体で▲22.9であった。1～3

## 〈採算(経常利益)〉

月期は▲20であったので、わずかに悪化している。業種別では、サービス業が約40ポイント改善し、卸売業の指数が約17ポイント改善し、小売業が4ポイント改善しているが、製造業は約23ポイントの悪化、建設業が約58ポイント悪化している。

7～9月期見通しは逆に製造業と建設業が改善の見通しを示しているのに対して、小売業、サービス業、卸売業は悪化の見通しになっている。

昨年同時期に比べた4～6月期の採算(経常利益)のDIは▲59.4となった。この数値は過去3回の調査の中で最も低いものである。サービス業、卸売業ではそれぞれ8ポイントプラス▲22.2と17ポイントプラスの33.3になっているが、製造業が16ポイントマイナスの▲23.1、建設業が48ポイントマ

## 〈資金繰り〉

資金繰りの昨年同時期との比較DIは▲19.7と1月～3月期に比べても約3ポイント改善している。業種別では、卸売業が20と60ポイントの改善、サービス業が▲13.3で約20ポイントの改善、製造業が0と約9ポイントの改善、小売業が▲25と2.8ポイント改善である一方、建設業が▲50と約38ポイント悪化している。

7～9月期の資金繰り見通しは▲17.9とわずかに改善するとなっている。業種別ではサービス業が7.1とプラス転換を見通す他、建設業が4.5ポイント改善の▲45.5となっている。小売業は▲35.3、卸売業が0、製造業が0となっており、悪化の見通しが出ている。

イナスの▲75、小売業が8ポイントマイナスの▲40となった。7～9月期見通しは▲24.6と約35ポイントの改善が見込まれている。これは、小売業以外の業種の全てで改善することを見通しを立てていることによるものである。小売業は横ばいの予想になっている。

